

アリス・ベイリー著
『テレパシーとエーテル体』

読書会 & シェア会

生命システム研究所

あんどうさわこ・根本泰行

お願い: ZOOMでの表示名を参加申し込みをした時のお名前にしてください。

大祈願

神の御心の光の源より

光をあまねく人の心に流れ入れさせ給え
光を地上に降らせ給え

神の御心の愛の源より

愛をあまねく人の心に流れ入れさせ給え
キリスト（如来）よ、地上に戻られ給え

神の意志、明らかなる中心より

大目的が人の貧しき意志を導かんことを
如来は大目的を知り、これに仕え給う

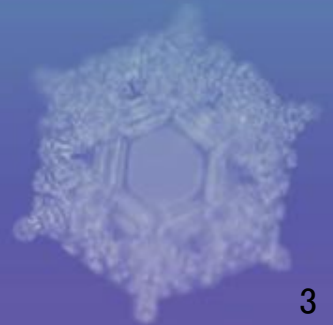
我らが人類と呼ぶ中心より

愛と光の大計画を成させ給え

悪の棲処すみかの扉を封じ給え

光と愛と力とをもて地上に大計画を復興させ給え

読書会



今日のスケジュール

読書会(21時5分位から1時間)

●担当:根本泰行

シェア会(読書会の後)

●担当:あんどうさわこ



アリス・ベイリー (Alice Ann Bailey, 1880年6月16日 - **1949年12月15日**)

神秘主義関係の作家で、神智学協会から派生した「アーケイン・スクール（不朽の知恵、秘教占星学）」の創立者。

米国では神智学協会に参加、ここでブラヴァツキーの著書に接し、協会員となった。1920年、アメリカ神智学協会で働く神智学者フォスター・ベイリーと再婚。その前年、大師（マハトマ）の**ジュワル・クール**（英語版）からのメッセージを受け取るようになったという。

1922年、夫妻はルシファー出版社（後年、**ルシス・トラスト**（英語版）に改名）を設立。1923年、彼女は「アーケイン・スクール」（Arcane School）という団体を創設し、大師から受けたという教えを広めた。

『**テレパシーとエーテル体**』 Telepathy and the Etheric Vehicle. (**1950**)



ジュワル・クール大師 (Djwal Khul) 翻訳書3~4頁

私は他の人々と同じような肉体をまとってチベットの辺境に住んでいる。そして、私の責務が許すときには、（現世的な意味で）時にはチベットのラマ僧の大きな一団を統括している。私がこのラマ寺院の院長であると伝えられているのはこの事実によるものである。

私は一般の学ぶ人々よりも少しだけ長く道を歩み、そのためより大きな責任を背負う、**あなた方の兄弟**である。

私が書いた本は、受け入れるよう要求することなく世に出される。それらは正しく真実で有益なものかもしれないし、そうではないかもしれない。それらが真実であるかどうかを適切な実践と直感の修練によって確信するのはあなた方の役目である。

語られていることが結果として確証に結びつくならば、もしくは、類似（対応）の法則のもとで照らし合せて正しいと思われるならば、それは申し分のないことである。しかし、そうでないならば、言われたことを受け入れてはならない。

テレパシーとエーテル体

Telepathy and
the Etheric Vehicle

アリス・ベイリー 著
AABライブラリー 翻訳・発行

第二部 エーテル体に関する教え

- 1 エーテル体の性質…………… 162
- 2 非分離の基礎…………… 172
- 3 惑星と人間のセンター…………… 184
- 4 センターとパーソナリティー…………… 192
- 5 空間の性質…………… 203
- 6 惑星生命——太陽系の一つのセンター…………… 209

アリス・ベイリー原著

https://www.lucistrust.org/online_books/telepathy_and_the_etheric_vehicle_obooks

Telepathy And The Etheric Vehicle

Sub-sections:

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 1](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 2](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 3](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 4](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 5](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 1](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 2](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 3](#)

SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 1

TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE

I. THE NATURE OF THE ETHERIC BODY

See Chart Evolution of a Solar Logos

Much that I may say here may be familiar to a certain extent, because there is a vast amount of information anent the etheric body scattered throughout my various books. It will have its value however if students can receive in a few pages a general idea and the basic concepts which underlie the teaching—or should I say, the fact? If they have the time, students would find it of profit to re-read what I said; run their eyes rapidly through the books and papers in search of the word "etheric." They will never regret it. Life itself, the training to be given in the future, the conclusions of science and a new mode of civilisation will all increasingly be focussed on this unique substance which is the true form to which all physical bodies in every kingdom in nature conform. Note that phraseology.

2023年7月18日(火)

『テレパシーとエーテル体』

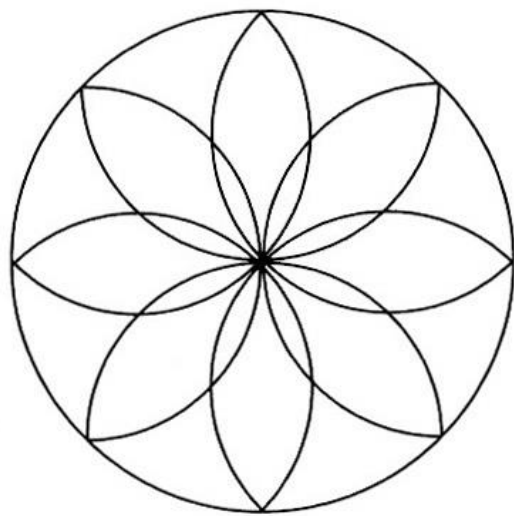
4 惑星と人間のセンター

192頁、1行目から始めます！

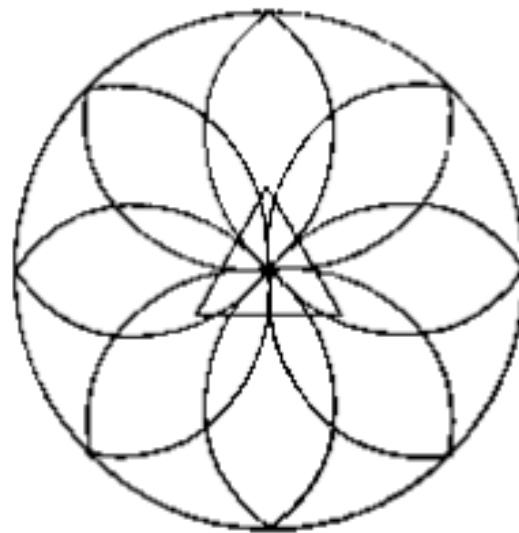
【復習】『テレパシーとエーテル体』

p.191: 図

人間のセンター＝蓮華



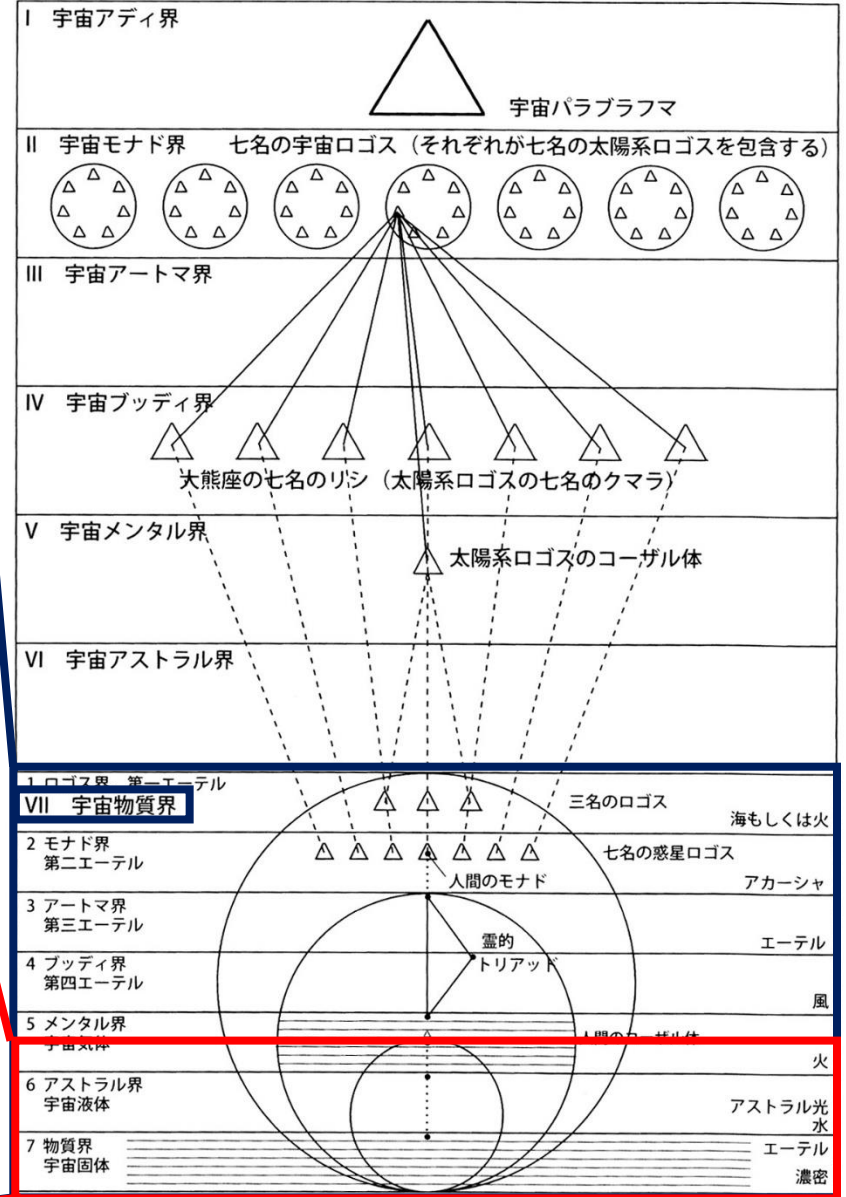
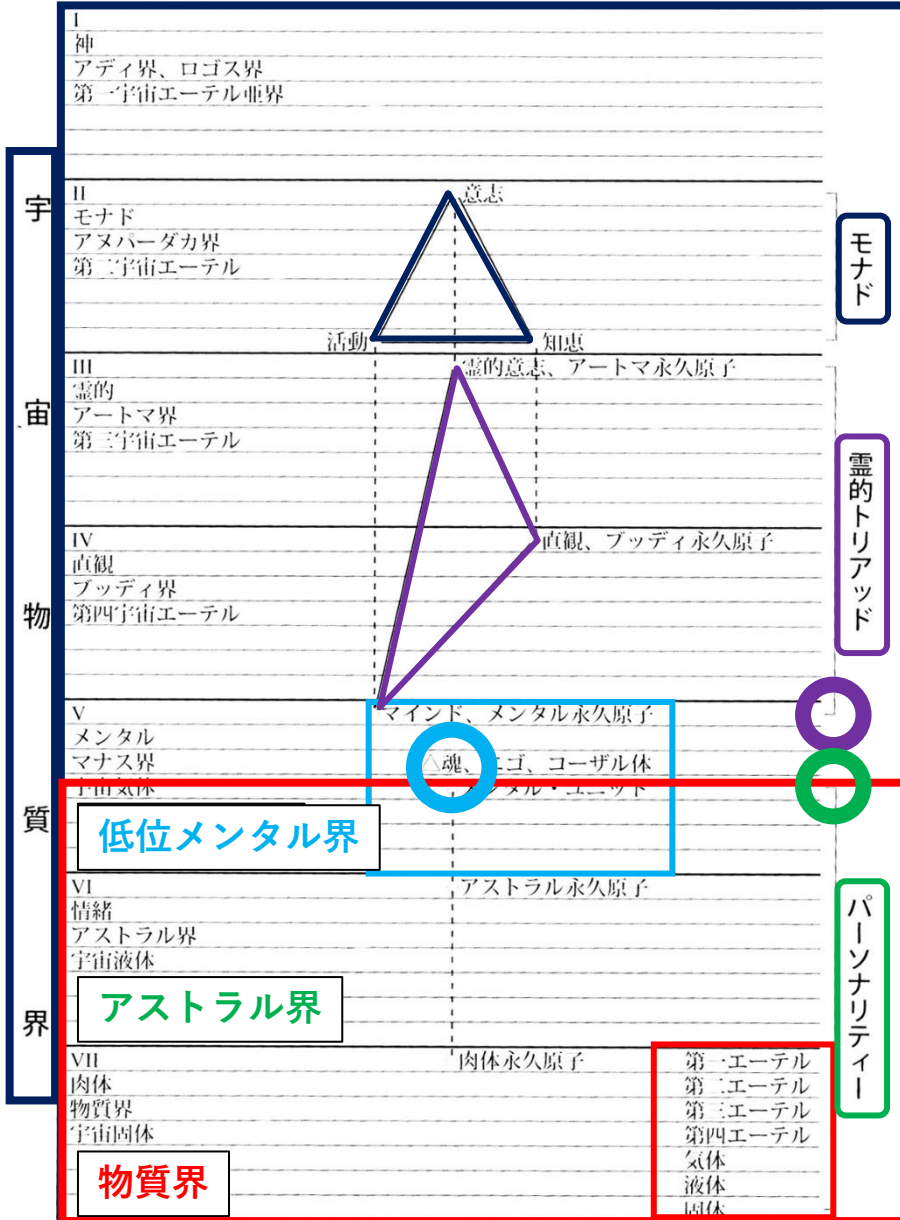
おそらく間違い
日本語翻訳 p.191



正しい
英語原著(ウェブサイト)

私たちの太陽系の七つの界層

三界とはパーソナリティーの存在領域



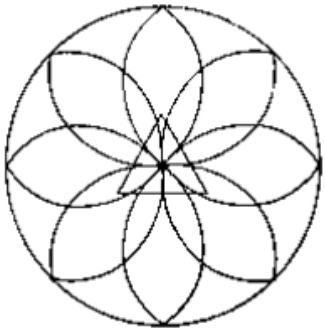
人間の構造

センターとパーソナリティー

p.192:2行目以降

ここからは三界でのパーソナリティー生活における支配要因としてのセンターとそれらの相互関係について考察しようと思う。その際、以下のもの（根本注：以下に示す1～4のこと）との関連において、3つの主要な惑星センター—シャンバラ、ハイラーキー、人類—の1つとセンターとの関係という観点から、この主題について学ぶつもりである。

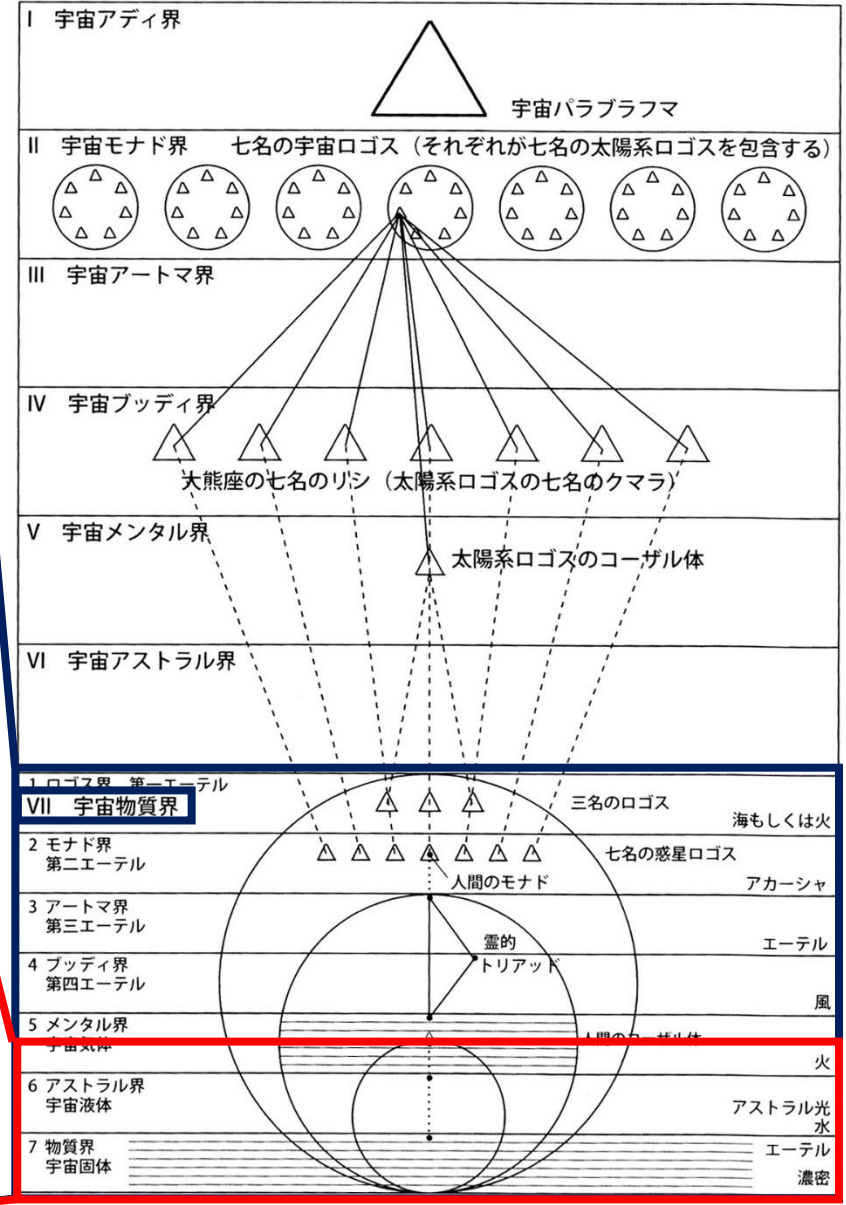
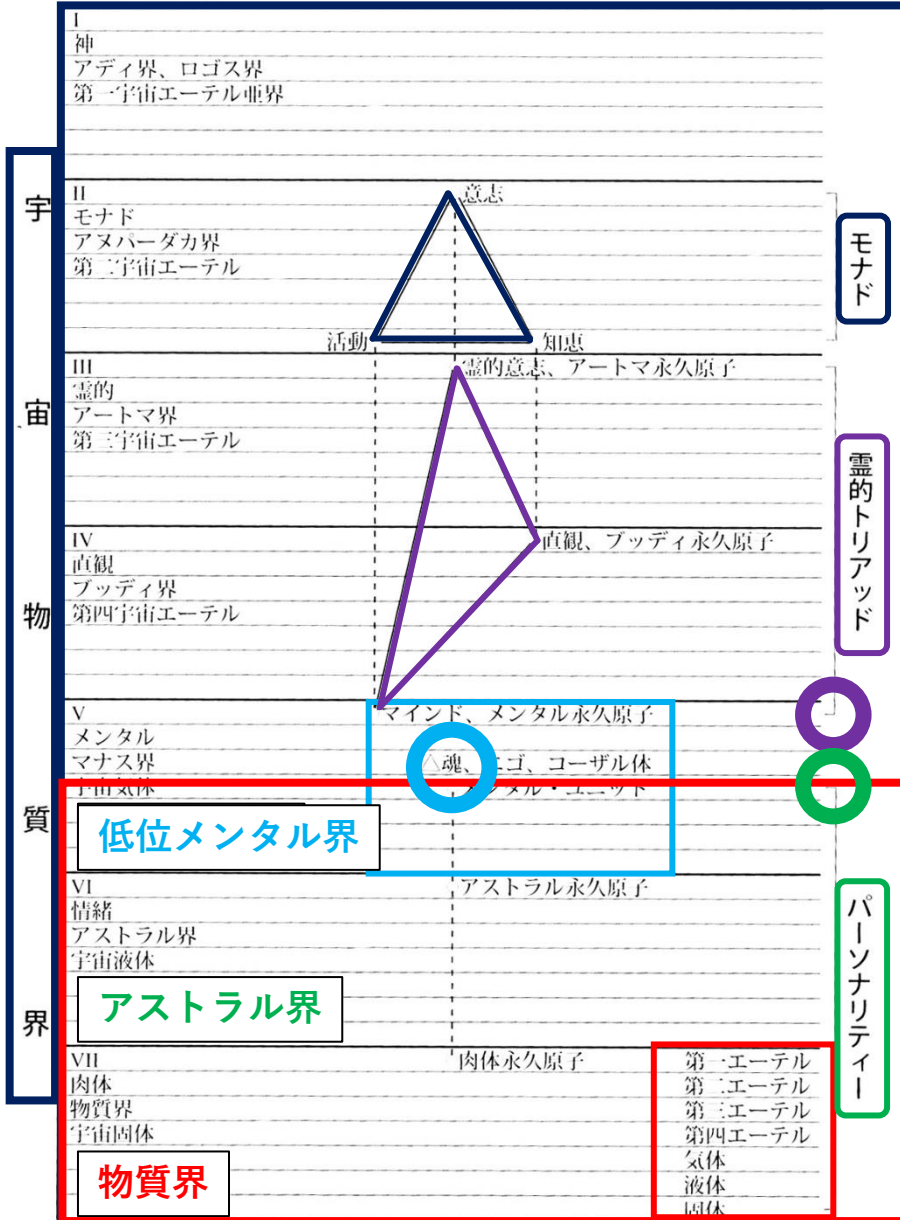
1. 中心にある点…モナド
2. 関連するエネルギー…魂
3. 放射領域…パーソナリティー
4. エネルギーの三角形
…霊的トリアッド



↑ 1つのセンター
の象徴的な描写

私たちの太陽系の七つの界層

三界とはパーソナリティーの存在領域



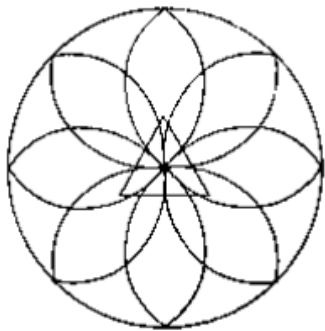
人間の構造

センターとパーソナリティー

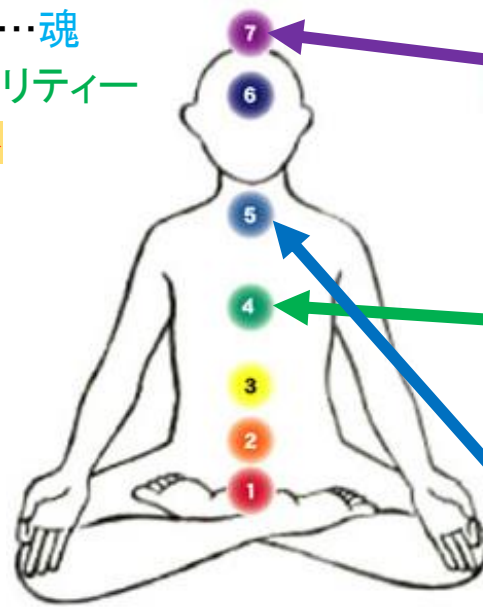
p.192:2行目以降

ここからは三界でのパーソナリティー生活における支配要因としてのセンターとそれらの相互関係について考察しようと思う。その際、以下のもの（根本注：以下に示す1～4のこと）との関連において、3つの主要な惑星センター—シャンバラ、ハイラーキー、人類—の1つとセンターとの関係という観点から、この主題について学ぶつもりである。

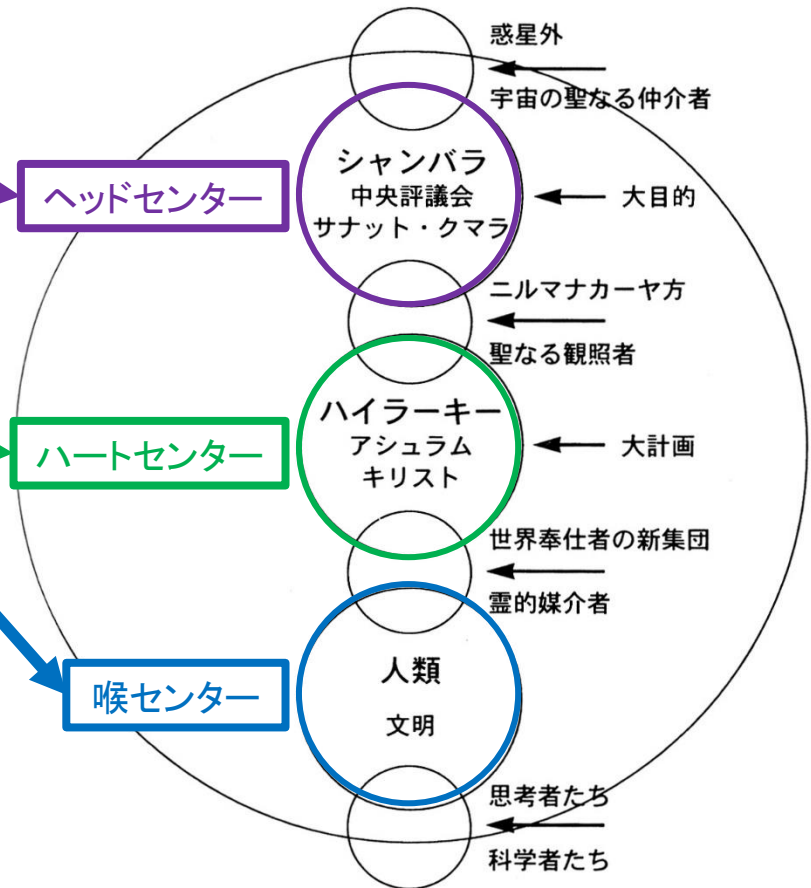
1. 中心にある点…モナド
2. 関連するエネルギー…魂
3. 放射領域…パーソナリティー
4. エネルギーの三角形…霊的トリアッド



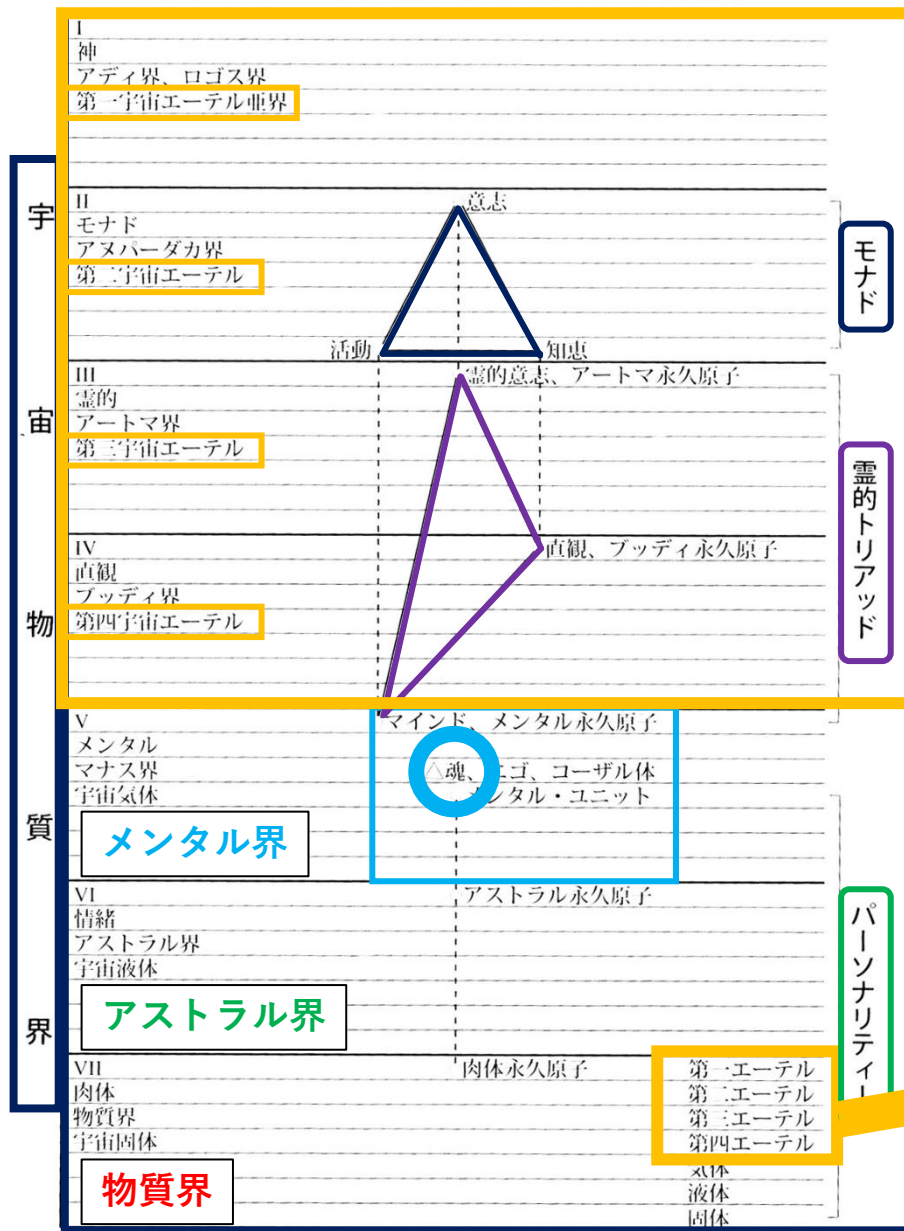
↑ 1つのセンターの象徴的な描写



↑ 人間のエーテル体に存在する7つのセンター



私たちの太陽系の七つの界層

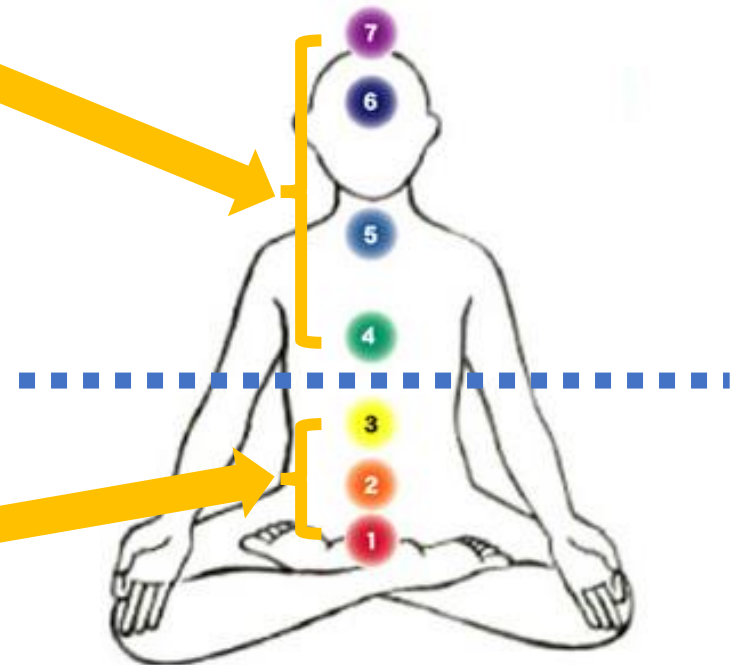


人間の構造

『テレパシーとエーテル体』

p.192: 後ろから1行目以降

- 横隔膜よりも下にあるセンター、つまり**太陽叢センター**、**仙骨センター**、**脊柱基底センター**は**惑星の物質界の四つのエーテル**によって統御されている。
- 横隔膜よりも上にあるセンター、つまり**ハート・センター**、**喉センター**、**アジュナ・センター**、**ヘッド・センター**は**四つの宇宙エーテル**によって統御されている。



p.193:5~6行目

「上にある如く、下もまた然りなり」

— 『エメラルド・タブレット』 ヘルメス・トリスメギストス

“As Above So Below; As Within So Without”

— Hermes Trismegistus, The Emerald Tablet

エメラルド・タブレット (Wikipedia)

伝説上のエメラルド板は、錬金術の守護神で、ある種の秘教修道者たちの総称とも考えられていたヘルメス・トリスメギストスによって記された銘碑で、12の錬金術の奥義が記されているというが、碑文の実物は現存しない。

2~3世紀にエジプトで密かにまとめられた一連の「ヘルメス文書」の文脈に連なる。

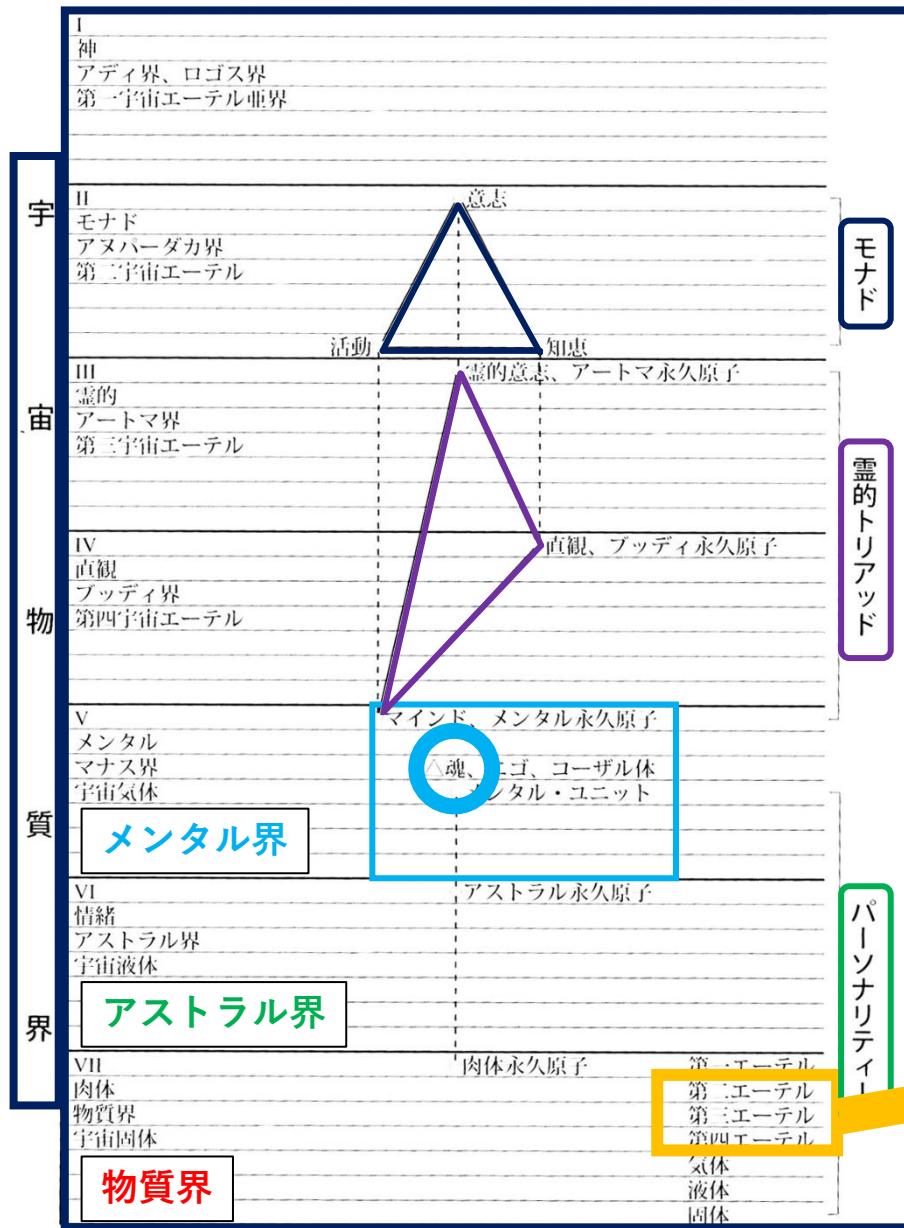
これに記されたうちで最も有名な言葉は、錬金術の基本原則である「下なるものは上なるもののごとく、上なるものは下なるもののごとし」であろう。これはマクロコスモスとミクロコスモス(大宇宙と小宇宙)の相似ないし照応について述べたものと考えられている。

物質界のエーテルから宇宙エーテルへの移行

p.193:8行目以降

- 進化が熱誠家をパーソナリティーを統合する段階へともたらず前
 - 横隔膜よりも下にあるセンターは—進化過程の間—下から数えて第一、第二、第三エーテル(根本注:第二、第三、第四エーテル)によって統御されている。
- 進化が熱誠家をパーソナリティーを統合する段階へともたらした後
 - 最高のエーテル原子亜界のエネルギー(根本注:第一エーテル)が統御できるようになり、実際に統御する。
 - これが起こったとき、宇宙エーテル界のエネルギーが横隔膜よりも上にあるセンターを完全な表現へともたらずことが可能になる。

私たちの太陽系の七つの界層



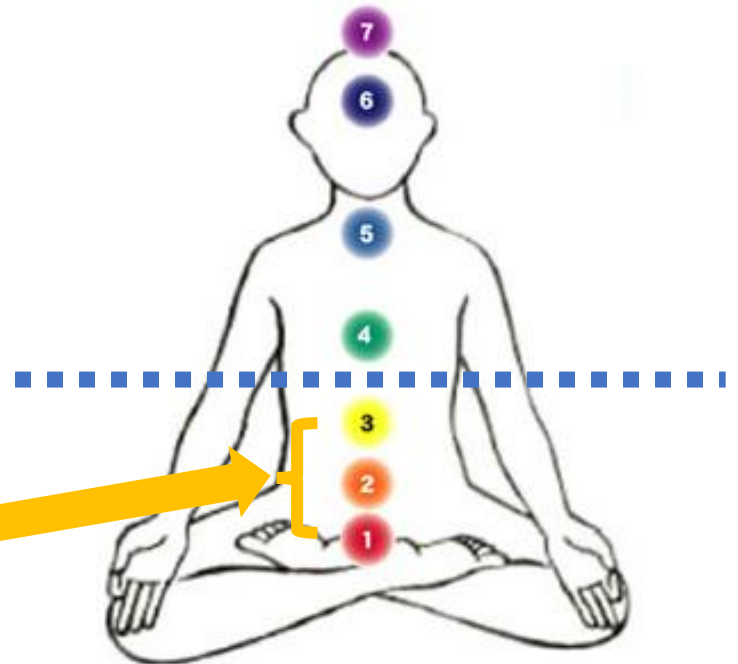
人間の構造

『テレパシーとエーテル体』

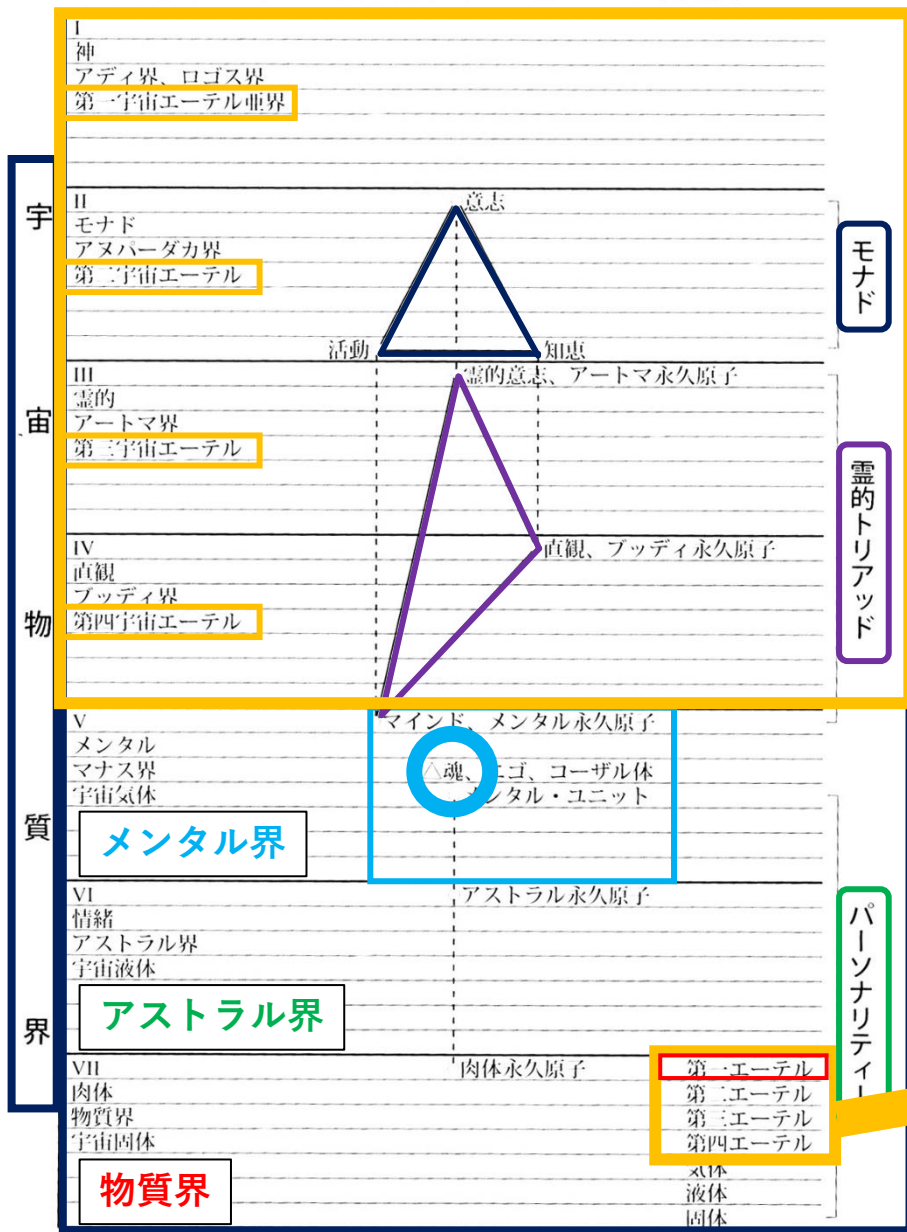
p.193:8行目以降

① 進化が熱誠家をパーソナリティーを統合する段階へともたらず前

- 横隔膜よりも下にあるセンターは、下から数えて第一、第二、第三エーテル (第二、第三、第四エーテル) によって統御されている。



私たちの太陽系の七つの界層



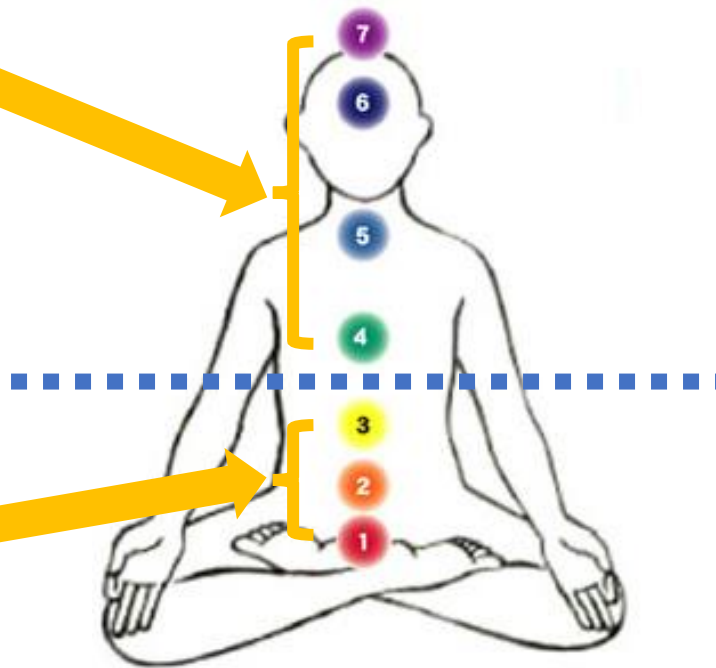
人間の構造

『テレパシーとエーテル体』

p.193:8行目以降

② 進化が熱誠家をパーソナリティーを統合する段階へともたらした後

- 最高のエーテル原子亜界のエネルギー(第一エーテル)が統御する。
- 宇宙エーテル界のエネルギーが横隔膜よりも上にあるセンターを完全な表現へともたらす。



物質界のエーテルから宇宙エーテルへの移行

p.193:8行目以降

- 進化が熱誠家をパーソナリティーを統合する段階へと**もたらず前**
 - 横隔膜よりも下にあるセンターは「進化過程の間」下から数えて第一、第二、第三エーテル(根本注:**第二、第三、第四エーテル**)によって統御されている。
- 進化が熱誠家をパーソナリティーを統合する段階へと**もたらした後**
 - 最高のエーテル原子亜界のエネルギー(根本注:**第一エーテル**)が統御できるようになり、実際に統御する。
 - これが起こったとき、**宇宙エーテル界のエネルギー**が横隔膜よりも上にあるセンターを完全な表現へともたらずことが可能になる。
 - これは弟子の道とイニシエーションの道において起こる。
 - **エネルギーの移行**というこの興味深い過程は様々な名前で言い表されている。
 - ✓ 「放射的な置換」、「**贖いの活気づけ**」、「インスピレーションを与えるエネルギーの反射光」など
 - これらの用語はすべて、以下のときに起こることを幾分不十分な言葉で言い表そうという試みである。
 - ✓ 高位のエネルギーが低位のエネルギーに置き換えられるとき
 - ✓ 霊的なエネルギーの磁力的な「引っ張り」が、パーソナリティー生活に主に関係する低位のエネルギーを引き上げて吸収するとき
 - ✓ 霊的トリアッドとモナドの栄光の反射光が、発達した人間によって用いられる最後の媒体における高位エネルギー・センターへと移行したとき

「贖いの活気づけ」 p.193: 後ろから6行目

- 【翻訳】 贖いの活気づけ
- 【原著】 “energising at-one-ment”
- 【辞書的な意味】 New College English-Japanese Dictionary, 6th ed. (C) Kenkyusha Ltd. 1998
 - atonement
 - I. 【U】 [具体的には【C】] 償い, あがない.
 - II. [キリスト教]
 1. 【U】 贖罪(しよくざい).
 2. [the A~] キリストによる償い《キリストがその受難と死によって全人類に代わって罪をあがなったとする信仰》.
- 【根本の解釈】
 - 原著の at-one-ment とは、「一つになること」「一体化」。
 - “energising at-one-ment” とは、「エネルギーによる一体化」。
- 【根本の根拠】
 - 【翻訳】 全体性、統一性、**一体性**、完全性—これらが完全なる人間の印である(『ベツレヘムからカルガリーへ』 p.113: 6行目)。
 - 【原著】 Wholeness, unity, at-one-ment, completeness—this is the hall mark of a perfect man.

各種のエーテルの間関係など

p.194:2行目以降

- **四つの物質エーテルと四つの宇宙エーテル**の関係
 - まだほとんど説明されてきていない。
 - これらの間には直接的な関係がある。
 - イニシエーション過程がこれを明らかにする。
 - 人類の媒体に重大な変化を引き起こす。
- **カルマ(原因結果の法則)の四つの様相と四つの物質エーテル**の関係
 - 四つの宇宙エーテルと同じように、直接的な関係がある。
 - この関係が後に、新しいオカルト科学の基礎になるであろう。
- **一般の人々の場合**
 - **横隔膜よりも下にあるセンター**によって統御されている。
 - それらのセンターは、**物質界のエーテル**に反応する。
- **イニシエートの場合**
 - **宇宙エーテル**に敏感である。
 - それは**横隔膜よりも上にあるセンター**を通して作用し、それらを目覚めさせる。
- **エーテル体の七つのセンター**
 - **人間**のエーテル体の七つのセンターは常に**物質的なエーテル**で構成されている。
 - **弟子の道**においては、**宇宙エーテル**の媒体になる。

人間のセンターの四つの様相 (1)

p.195:1行目以降

1. 中心にある点

- ✓ 古い東洋の呼び方では「蓮華の中の宝珠」。
- ✓ モナドがそれ自身を物質界に固定するための生命の点であり、すべての束の間の媒体の生命原理である。
- ✓ すべての可能性、すべての潜在力、すべての経験、すべての振動活動が包含されている。
- ✓ 存在しようという意志、(通常は愛と呼ばれる)磁力的な引力の特質、活発さと愛を完全な表現へともたらず活動的知性を体現している(根本注: モナドの第一様相の意志、第二様相の愛と知恵、第三様相の活動知性)。
- ✓ 存在するすべてであり、他の三つの生命様相は、それが存在することを示すものではない。
- ✓ それには、自らの源に撤退する能力と、それ自体の上に質料のいくつもの層を積み重ねていく能力がある。
- ✓ 永遠の巡礼者を永劫にわたる経験の後に父の家へと帰還させる原因でもある。
- ✓ 意識の七重性質を表現する七つの「点」つまり「宝珠」があり、それらが一つずつ生き生きと表現されたとき、支配するモナド光線の七つの副光線(←根本には不明)が一つずつ顕現していき、その結果としてイニシエートである弟子はそれぞれ(いずれ時が来れば)完全な外的栄光に包まれた神の子になる。

人間のセンターの四つの様相 (1)

p.195:1行目以降

1. 中心にある点(続き)

- 個人のエーテル体が、この七つの点から発せられる光に覆い隠されて見えなくなり、頭部の千枚の花弁を持つ蓮華の「蓮華の中の宝珠」の光に彩られるときが訪れる。そのとき、それぞれのセンターが生き生きとした火の線によって関係づけられ、それぞれが完全な聖なる表現になる。
- 進化過程の終わりにはエーテル体のあらゆるセンターが、それまで常にそのセンターを用いようとしてきた基本的なエネルギーを生き生きと力強く美しく表現するようになる。
- しかし、それらのエネルギーは、物質的な生活にではなく聖なる生活に捧げられ、明るく純粹で光り輝くものになり、それらの光の中心点は人間の普通の目には感知できないほどの光輝を放つようになる。
- このような点は七つあるが、モナドが表現するのは神性の三つの主要な様相、つまり三つの主要光線だけであるため、このような「蓮華の中の宝珠」は三つのタイプしかない。

お知らせ

生命システム研究所

<https://life-system-labo.com/>

- 半田広宣先生主催のヌーソロジーサロンでのゲストトーク

講演『「宇宙の創造原理」と「意識の二階層論」』

日時: 7月22日(土)14:00~17:00 [ZOOM]

内容: 1時間: 根本の講演、1時間: 半田先生との対談、1時間: 質疑応答 & 討論

- ホリスティックヘルス情報室(降矢英成)主催 [ZOOM & 会場]

「ホリスティック 意識科学」連続講座

日時: ① 7月26日(水)19:15~21:15 『宇宙究極の謎』とは?

② 8月23日(水)19:15~21:15 『宇宙の創造原理』について

③ 9月27日(水)19:15~21:15

『意識の定義』と『意識の二階層論』について

④ 10月25日(水)19:15~21:15

現代の『意識科学』が現代社会に与える影響について

内容: 1時間30分: 根本の講義、30分: 降矢先生との対談

受講料: 2時間 × 4コマ 17,600 円(税込)

チラシ: https://www.hichelth.com/202307_hollshikiS.pdf

「ホリスティック意識科学」連続講座

① 7月26日(水):『宇宙究極の謎』とは？

- 「なぜ、この宇宙は無ではなくて、存在しているのか」という「問い」を、私は『宇宙究極の謎』と呼んでいます。私見では、この「問い」に対する「答え」は存在しませんが、「答え」が存在しないということから、興味深い一つの倫理的な原理を引き出すことができます。

② 8月23日(水):『宇宙の創造原理』について

- この宇宙には根源的には唯一の存在が存在していると私は考えており、その存在を私は『絶対無限の存在』と呼んでいます。『絶対無限の存在』は予測できない体験したいと思ったので、みずからを無数に分割した上に、分身のそれぞれに自由意志を与えました。分身の一つ一つが私たちである、と私は考えています。

③ 9月27日(水):『意識の定義』と『意識の二階層論』について

- 私は「意識」について、「『絶対無限の存在』から生まれた分身のそれぞれが、実際にこの世界を体験するために作られたシステムのことである」と定義しています。そして「意識」は物質世界のみならず、高次元世界にも存在しており、後者の「意識の本体」は死後も存続すると考えています。

④ 10月25日(水):現代の『意識科学』が現代社会に与える影響について

- 現代の『意識科学』においては、ほとんどの研究者が、以下の2つを前提としています:唯物論…意識は脳が作り出している／進化論…ヒトの進化過程のどこかで、脳が複雑さを獲得した時に、意識は創発した。私見では、いずれも誤りであるのみならず、これらの考え方は、現代社会において大きな悪影響をもたらしています。

生命システム研究所

<https://life-system-labo.com/>

- エネルギー医学インスティテュート主催ー特別セミナーー

講演:「量子もつれ」と「エネルギー医学」(根本泰行)

日時: 8月5日(土) 18:30~20:45 [ZOOM & 会場 アクエリアス]

申込ウェブサイト: <https://energymedicine-japan.com/seminar202308>



IEMJ 8月基本セミナー

「量子もつれ」と「エネルギー医学」



根本泰行 講師

2023.8.5.SAT-18:30

会場参加・Zoom参加・録画受講可能

開催場所: ホリスティック・スペース-アクエリアス

満月ツインハート瞑想会

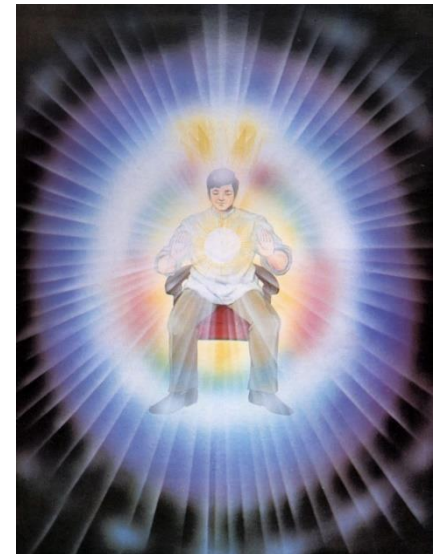
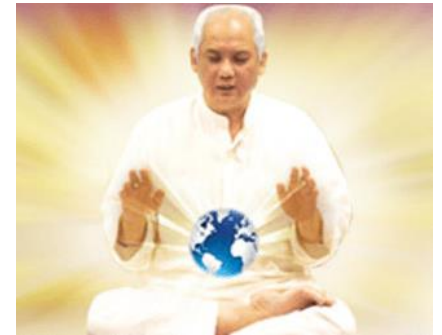
毎月満月の日の21時～22時に、ZOOM上で無料で開催します。
初心者大歓迎！ 聖なる愛と光を地球全体に送るための瞑想法です。

- 2023年8月2日(水)21時～22時、担当:根本泰行
- 2023年8月31日(木)21時～22時、担当:あんどうさわこ
- 2023年9月29日(金)21時～22時、担当:あんどうさわこ
- 2023年10月29日(日)21時～22時、担当:根本泰行
- 2023年11月27日(月)21時～22時、担当:あんどうさわこ
- 2023年12月27日(水)21時～22時、担当:根本泰行

必ずウェブサイトから申し込んでください。

<https://life-system-labo.com/2022-3twinheart/>

2023年1月22日より、毎月新月の日の21時からアリス・ベイリー著『テレパシーとエーテル体』の読書会とシェア会を開催しています。ウェブサイトから申し込んでください。



シェア会

